

平成29年度 第4回藤沢型地域包括ケアシステム推進会議 議事要旨

I. 開催概要

1. 開催日時 2018年(平成30年)3月29日(木)午後4時～5時30分

2. 開催場所 藤沢市本庁舎5階 5-1・5-2会議室

3. 出席者

(1) 委員=22人

小林 邦芳, 木原 明子, 関根 顕, 大島 崇弘, 吉田 展章,
齊藤 祐二, 島村 孝子, 児玉 文卿, 川瀬 和一, 中嶋 利浩,
菅原 健介, 宮部美佐子, 木村 依子, 北島 令司, 市川 勤,
田場川善雄, 青木 静恵, 中村 裕司, 亀山 悟, 倉持 泰雄,
向 泉, 片山 睦彦

(2) 事務局=23人

地域包括ケアシステム推進室 平井(室長), 三ツ井(主幹), 新井(主幹), 内田(主幹),
齊藤(室長補佐), 越川(室長補佐), 一瀬(主査), 糊澤(担当),
小野(担当)

福祉健康総務課 蓑原(参事)

介護保険課 寺田(参事), 大塚(主幹)

障がい福祉課 安孫子(参事)

市民自治推進課 宮原(参事)

子育て企画課 川口(主幹)

教育総務課 佐藤(主幹)

藤沢市社会福祉協議会 村上(課長), 樋口(課長補佐・CSW), 垣見(生活支援コーディネーター)

(3) 傍聴者= 0人

4. 議題等

1 開会

2 議題

【第1部】藤沢型地域包括ケアシステムの推進について

(1) 平成29年度の取組状況及び平成30年度の取組の方向性について

◎全体的な推進状況について

① 地域の相談支援体制づくりについて

② 地域活動の支援・担い手の育成等について

③ 健康づくり・生きがいづくりについて

④ 在宅生活の支援について

⑤ 社会的孤立の防止

⑥ 環境整備等について

【第2部】推進会議の今後の役割等について

(2) アンケート調査の結果等について

3 閉会

Ⅱ. 会議の概要（議事要旨）

1 開 会

2 議 題

【第1部】藤沢型地域包括ケアシステムの推進について

(1) 平成29年度の取組状況及び平成30年度の取組の方向性について

◆事務局から説明を行った。

代 表 説明が終わりました。意見等がありますか。

委 員 ③健康づくりの部会について、セルフケア・コミュニティケアを目指したフレイル予防を追加している。薬剤師の視点から、重複投与防止・ポリファージ・セルフメディケーションというところも関わってきます。

委 員 関連して、この部会のいきいき長寿プランとの関わりはどういったものになるのでしょうか。

事務局 高齢者の視点と藤沢型の全世代の視点という差があります。ただ、考え方は共通です。特に参加型介護予防、フレイル、オーラルフレイルは重点的に取り組んでいきたいという思いで、この報告にも追加で記載しています。

委 員 各種計画についても、高齢者にはいきいき長寿プランを、若い人には健康増進計画を、など、セットで分かりやすく周知してはどうでしょうか。

事務局 委員のおっしゃるとおり、「全世代」がわかりにくいというご意見はよくいただきます。藤沢市の目指す「全世代」をどう周知していくか、いただいたご意見を参考にわかりやすい形を考えていきたいと思えます。

委 員 在宅医療介護連携にかかるICTのことについて、平成30年度の方向性から記載がありませんが、どのようにしていくのでしょうか。

事務局 今年度は研修会という形で行ってきましたが、来年度についても継続して、藤沢でどのように進めるのか、メリット・デメリットを認識する取組を検討していくことが大切かと思っています。

委 員 データ活用について、健診データを集めて傾向を出しましたが、病気の内容なども加味して、踏み込めるとよいものになると思えます。

- 委員 ①相談支援体制については、そもそも相談機関に足を運ぶことに勇気がいるので、そこを解消するような取組をスピード感をもって進めることが重要かと思います。②の災害時専門職ボランティアについては、ボランティアも被害者になっていると思われるので、遠くの都市と連携することを考えるとよいと感じています。また、この藤沢型について、予算措置のところの記載がありませんが、大丈夫なのか、具体的に示してほしいと思います。
- 委員 私自身も自治会の役員をやっていますが、藤沢型を市長がつくっているといまだに思っている方が非常に多いです。専門職を含め、これからの地域としてどうしていく必要があるのか、盛り込んでいただけるとよいと思います。
- 委員 高齢者が持続的に体操等を行っていくことが大切です。また、ただ体操をやるだけでは効果が分かりにくいので、こちらでは半年に一回体力測定を行っています。そういった形で、結果を個人にフィードバックしていくことで、取組の継続が図れるのではないのでしょうか。
- 委員 専門性が高くなればなるほど、ハコだけではなく人材の養成が大切になってくるので、重点テーマの中に、人材育成や、養成の記載があるとよいと思います。また、住民の参画を求めるには、達成感や、やった感が必要だと思います。
- 委員 重点テーマにかかわるところでは、地域活動の補助金の煩雑な手続きを見直してほしいと感じています。また、困ったとき誰に相談するか、というところで、やはり CSW を、予算の問題等あると思うが、全地区配置に向けて進めてく必要があると思います。
- 委員 30年度に民生委員に関する計画を策定するための会議が始まります。この計画や藤沢型を、地域住民に密着した活動を行っている民生委員が、個々の活動にどう生かすかがポイントになると思います。協議体も立ち上げたばかりなので課題整理にとどまっていますが、地域は、今年度は、これを実現する、という具体的な動きの提示を求めています。
- 委員 市民が藤沢型を自ら進めようと思うには、現状を理解することが大切です。また、せっかくいい取組をしても人が集まらない、ということがままあるので、楽しさ、エンタメとデザインに力を入れる必要があります。
- 委員 今後介護人材の不足が課題となってくるであろうことから、人材育成の支援

をしっかりとやっていく必要があります。

委員 今の大きな流れとしての「地域で支えあう」ということについて、一般の住民をその気にさせることが重要だと感じています。

事務局 予算の関係について、藤沢型包括ケアの推進は、特に視野を広げる、横の連携によって、予算をあまりかけずに進める形を検討しているものがほとんどです。ただ、必要などころに必要なお金・人をつけていくことが行政の役割だと考えていますので、必要があればしっかりと予算措置を考えます。また、今いただいた意見を踏まえ、進めていきたいと思えます。

事務局 CSWについては、平成30年度に善行・辻堂・御所見の3地区を拡充します。今後の拡充については、委員の皆様のお話にもありましたが、専門人材の確保には予算だけでなく育成が必要です。CSWとして活動ができる人材の育成も含め、関係機関の皆様と情報交換、意見交換をしながら進めていきたいと考えています。

【第2部】推進会議の今後の役割等について

(2) アンケート調査の結果等について

◆事務局から説明を行った。

委員長 推進会議1期目の最後に皆様から一言いただきたい。

委員 「子育て」について、実際に2,3歳の子どもを育てている母親が地域で孤立しています。子どものことを考えるのであれば、その母親にとっての2,3年間を楽しく過ごせるような環境をつくる必要があります。包括ケアの中に「子育て」の視点をどう入れるのがよいか、考えていましたが、こういう場合にはこういう支援がある、というのが明確になっているとよいと感じています。

委員 地域、現場の取組として、ボランティアセンターづくりや災害時の取組など、それぞれの取組として進めるだけでなく、地域の中で情報交換ができるような会をつくっていただければと考えています。

委員 地域は市民センターとの接点が多いが、センター職員がより地域に出て話を聞いていけるような庁内改革が必要ではないかと感じています。藤沢型については、昨年度作成したリーフレットが原点で、6つの重点テーマについて議論してきて、今回のようにまとめていただけて感謝しています。これ

からは、現場の人間が、どう捉えて、どう進めるか、という段階に入り、課題がわかってきて、そこを見直していこうという動きになってきます。まさしく平成30年度がスタート地点だと感じています。

委員 老人クラブとして、地域支援事業ということで県の補助事業でモデル事業として「高齢者も支える側になり、支え合おう」という取組を進めてきました。藤沢型のことを市民が理解することが重要なので、啓発活動を進めていきたいと考えています。

委員 支えあいの地域づくりには自治会の在り方の見直しが急務だと感じています。特に、自治会に割り振られた仕事を軽くし、地域にあった活動を行う余裕ができるのが望ましいと思います。

委員 ヤングケアラーなどが代表的だが、もともと相談ができない方、どこに相談したらよいかもわからない方などがいることに関して、各所と連携して、よりよい発展に努めていけるとよいと思います。まずは、お互いの現状理解から。

委員 高齢者の居場所がないと感じていたため、藤沢市が同じ方向を向いていることが嬉しいです。自分たちが高齢者になったときにどうしたらよいか、若い人にも入ってもらいながら、持続可能な仕組みづくりを行っていけるとよいと考えています。

委員 共生社会の実現には、市民にいかに参加してもらおうかが、非常に大きな課題となるため、活動しやすい環境づくりが不可欠です。

委員 医療や介護の機能分化の中で、安心してその方の生き方・生き様まで受け止めることが大切だと考えます。

委員 次の世代にどういう藤沢・日本を残していくかを考え、挑戦していく必要があります。子どもと高齢者がテレビゲームで一緒に遊ぶ場など、これまでの常識にとらわれないアイデアが出てくるとよいと思います。

委員 藤沢型地域包括ケアシステムは長く、エンドレスな事業であるため、くじけず、諦めず、これからも取組を進めていきたいです。

委員 今後さらに制度や施設を超えて取組を進める必要が出てくると感じています。横断的な連携を、各団体が考えていかなければならないと思います。

- 委員 民生委員が地域の方々を支援につなぐ入口となっています。善行では孤独死をなくそうという取組を進めています。子どもたちが地域の中に溶けこんでいくことで、地域社会の核ができるのではないかと考えている。
- 委員 地域包括ケアシステムはもともと「高齢者」の考え方なので、「藤沢型」と幅広い対象をとった際に専門支援の薄まりの懸念があった。障がい分野はずっと共生社会を目指してきているので、今後も、地域で、やれることをやっていきたい。
- 委員 共生社会や包括ケアの前提として、色々な暮らし方があっていい、ということがあります。相談については、広く浅い相談から深い相談をセットで考える、そして、どこに相談するのか、までの3層構造を埋めるのにどうしたらいいのかをぜひ、次年度以降ワーキンググループなどで検討できたらよいと個人的に思っています。
- 委員 藤沢型は、総合カタログのようなものを作っていく取組ととらえています。相談について、①相談先の専門性を高める②地域で問題を見逃さない③その両者がつながっていく仕組み、の3つをセットで行う必要があります。
- 委員 藤沢型ということで、全世代・全対象という幅広いテーマを扱っていますが、他の委員が抱えている問題が見えてきづらいため、現状を理解する必要があるという中では、抱えている問題の共有が必要です。また、庁内の検討状況をオープンにしていただけるとありがたいです。
- 委員 高齢者・子ども・若い方など、年齢別・世代別の部分を施策に入れてもらえると伝わりやすいと思います。
- 委員長 選出母体の幅の広さから、意見はまとまらなくて当然ですし、1つの課題に対して1つの回答である必要はないと考えています。

(3) その他

3 閉 会

- ◆事務局から閉会のあいさつを行った。

以 上